

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表（大学）

科目区分	学部	学科	科目名称【2019年度入学生】	単位	担当教員名	科目名称【2018年度以前入学生】	単位	担当教員名	概要		
基礎教育科目（2019年度入学生） 大学共通科目（2018年度以前入学生）	全学部	全学科	福岡女学院学	2	大島 一利	聖書概説	2	大島 一利	福岡女学院は1885年の創立以来、聖書の学びと生きた礼拝により、その教育の生命を保ってきた。この講義ではその建学の精神を知るために、聖書そのものに深く学ぶ事から、その営みを辿っていく。聖書はキリスト教の精神と信仰を支えるのみならず、広く西欧文明の背景を形成してきた。現代における様々な世界情勢の問題にもそれは影響を与えている。本大学における様々な教育科目と関連しつつ、その大きな広がりがある建学の精神と深く結びついていることを学ぶ。聖書とつながりの深い視聴覚教材（映画、音楽など）も活用しながら、ユダヤ教・キリスト教文化の紹介も並行して行う予定である。		
					徐 亦猛			福岡女学院は1885年の創立以来、聖書の学びと生きた礼拝により、その教育の生命を保ってきた。この講義ではその建学の精神を知るために、聖書そのものに深く学ぶ事から、その営みを辿っていく。聖書はキリスト教の精神と信仰を支えるのみならず、広く西欧文明の背景を形成してきた。現代における様々な世界情勢の問題にもそれは影響を与えている。本大学における様々な教育科目と関連しつつ、その大きな広がりがある建学の精神と深く結びついていることを学ぶ。聖書とつながりの深い視聴覚教材（映画、音楽など）も活用しながら、ユダヤ教・キリスト教文化の紹介も並行して行う予定である。			
								大島 一利	2	大島 一利	イエス・キリストによって神の深い愛を知らされた教会は、音楽や言葉によって神に感謝と礼拝をささげ、その場を礼拝空間としてと整えていった。そのことによって、音楽が象徴し、結晶し、さらには教会の言葉を支える神学思想も展開して来た。これらの営みは時代と地域によって異なる。その相違はその生きた時代を豊かに映し出すものと言える。この講義では、キリスト教の歴史とともに思想や芸術の営みを紹介していきたい。世界史、日本史、美術・芸術史を基礎としつつ、譜史料を知ることを通してその内容に深くふれていきたい。
								徐 亦猛		徐 亦猛	原則として講義形式で行う。キリスト教とつながりの深い視聴覚教材（映画、音楽など）も活用しながら、参加型授業をしていく。
								大島 一利	2	大島 一利	クリスチャンとはどのような存在であるのか。何を語り、何をなし、どのような影響を現代に至るまで及ぼしてきているのか。この講義では匿名・無名を含めて多くのキリスト教信者によって生きた人々を取り上げる。その際にはその人物を取り巻く様々な時代的・地域的環境を十分に考慮し、その制約の中にあつて残した足跡をたどる。その背景にはキリスト教の歴史と文化がある。そしてそれぞれの時代の特色がある。これらの事柄を踏まえつつ、一人一人の生きたクリスチャンの姿を共に確かめる。一人一人の生きた信仰を通して、自らの人格形成に寄与する大きな刺激と感動を共有したい。
								徐 亦猛		徐 亦猛	・人類の古典である聖書がどのような人間観に立っているのか。世の中のキリスト者とはどのような存在であるのか。イエスの教えを忠実に守り、生きてきたキリスト者を取り上げ、彼らの活動、思想を紹介する。 ・私たちの身近にある現実に対して、広い視点から思索するための養育を身につける。
						女性のキャリア形成Ⅰ	2	浮田 英彦 古賀 正博 岩尾 至和			みなさんは、キャリア教育とは「生きる力」と学んだのではないのでしょうか。大学ではより具体的に「生きる力」に必要な力や能力を学んでいきます。進むべき方向、それを実現するための学び、さらに社会生活や職業生活と関連付け、自己理解の深化などを学んでいきます。また、社会で活躍できる人になるための一歩を踏み出す勇気をつくり出すとともに、社会人基礎力を身に付けていきます。
						社会人入門Ⅱ	2	浮田 英彦	2	浮田 英彦	内容は、キャリア形成論的な講義です。キャリアとは何か、自らのキャリアに関する相違点、人材ビジネスの仕組みや課題、労働市場の現状等をその分野の社会人講師が最新情報を伝えます。講義としていますが、一方性にならないように、ディスカッションや質疑応答に比重をおきたいと考えています。また、各学部学科の特性に対応できるように講師は様々な業界より構成されています。
						インターンシップ	2	キャリア開発運営委員	2	キャリア開発運営委員	受入れ側の企業、団体によるが、基本的には事務・接客・営業・企画等について、指導担当者の下で業務、または業務補佐を行う。少子高齢化、経済のグローバル化、社会や技術変化の加速する時代において、自己の職業適性や将来設計について考え、主体的な職業選択や高い職業意識の育成を図る。また、ビジネスマナー習得だけでなく、産業や社会についての実践的な知見を深め、就職後も成長し続けられる人材を目指す。
						教育経営論	2	伊藤 文一	2	伊藤 文一	本講義では、学校経営、学級経営を中心とするそれぞれの経営の理論と実態を、多角的に学ぶことで、よりよい教育を実現するための発想や手法を学ぶことを狙いとされている。

					人権教育の理論と指導法	2	伊藤 文一	人権教育の指導方法等の在り方について（第一次・第二次とりまとめ）を学び、人権尊重の理念に対する理解を深め、これを体得することができるようにする。
			計	4		計	14	
専門教育科目	人文	現代文化						
				2	池田 拓朗	2	池田 拓朗	観光がどのような背景で誕生し発展を遂げてきたのか、その過程で文化や社会にどのような影響を与えてきたのかを講義形式で概説します。主な内容としては、観光の歴史、観光の文化・社会への影響、近年の新しい観光のあり方などを取り上げますが、受講者の反応をみながら進度や内容を調整していきます。
				2	池田 拓朗	2	池田 拓朗	観光社会学におけるこれまでの重要な研究課題について観光の歴史とともに概説していきます。また観光が世界を変革する力をもつようになった背景とその発展のプロセスを分析する一方で、観光化による自然破壊、文化破壊、社会的分断等、観光は社会に矛盾をもたらす両義性を秘めていることと理解を深めていきます。その上で、観光社会学の視点を用いながら、現代社会で展開するさまざまな観光現象を具体的な事例として分析・考察をしますが、受講生の関心や反応に合わせて内容や進度を調整していきます。
						2	池田 拓朗	私たちがいる地域を観光するとき、訪れた場所で私たちがとる行動や態度はその地域のイメージに影響を受けることが多く、観光パンフレットやテレビ、雑誌、映画などのメディアを通してそのイメージを膨らませてまなざしを向けています。この講義の前半はジョン・アリーの「観光のまなざし」の概念を通して、どのようにまなざしが形成され観光客はそれどのようにイメージしているのか、そこに存在する力関係などまなざしの理論について概説します。講義の後半ではさまざまな事例を用いて観光のまなざしが向けられる場所がどのように変容・発展してきたのか、そしてそこに潜む倫理的問題性はないのかを考察していきますが、受講者の関心や反応に合わせて内容や進度を調整していきます。
						2	浮田 英彦	無形性で在庫することができず、季節変動に把握しにくい欲求など、観光産業は多くの特徴を持ちます。その構造と、特性を学ぶことを目的としています。
						2	浮田 英彦	以下二点を教育目標としています。 ①観光サービス業にはどのようなモノやコトがあるのか理解すること。 ②観光産業の特色を理解すること。
				2	浮田 英彦	2	浮田 英彦	なぜ、売れるモノと売れないモノがあるのでしょうか。多くの人が訪れる観光地は単なる観光地の魅力だけなのでしょうか。旅が興味しければ必ずしもストライクは集まるのでしょうか。あなたはなぜ、そのお店ばかり利用するのでしょうか。このように考えることマーケティングとは、私たちの身近なところにあることがわかります。事例を交えてマーケティングの仕組みを学びます。
						2	伊藤 文一	教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む)について考え、自分の教師像を磨くようにする。
						2	伊藤 文一	実際に各学校でどのように教育課程が編成されていくのか、という実務的な側面に留意して授業を行う。この授業を通して、カリキュラム・マネジメントの意味を理解し、実践的指導力を身に付ける。
						2	大國 眞希	学習指導要領の目標・内容を理解し、指導方法・評価の仕方をおさえ、学習指導要領の全体構造と国語科教育についての理解を深めることを目的とする。また教育者としての言語感覚を身につけ、自らが言語環境を構成する要因となる自覚を形成する。
						2	大國 眞希	この授業では、授業構築の基礎的な用語の解説や研究、文献などの知識を築きつつ、教材研究に重きを置き、確かな教材研究に基づいた授業構想を立てて、学習指導案を作成することを目的とする。授業をおこなうために不可欠な教材研究及び指導方法の研究を自らするために、各領域の教材研究をおこない、指導過程を構想する。
						2	大國 眞希	学習指導要領、指導の基本的な事項、方法、また様々な学習指導論を復習・理解したのち、立て指導計画と学習指導案にもとづき、模擬授業をおこなう。実践研究の動向、模擬授業の実施とその評価、反省を通して、授業改善の視点を身に付ける。
						2	大國 眞希	国語科教育法Ⅰ～Ⅳを踏まえて、学習指導要領に示された目標や内容を理解し、基礎的な理論を理解し、教材研究で教材の本質や価値をつかみ、具体的な授業場面を想定した学習指導案を作成したうえで模擬授業を行う。模擬授業実施後は、振り返りをおこない、研究動向も視野に入れながら、授業設計の向上、授業の改善を目指す。
						2	伊藤 文一	道徳の意義や原理、歴史等を踏まえ、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付けるように指導する。その上で、特別の教科「道徳」の目標である「道徳的判断力、道徳的心情、道徳の実践意欲と態度」が身に付くように指導する。

						教育方法論	2	伊藤 文一	授業とは、教師、子供、教材の中で子供が成長発達する機会であることを理解させ、わかる授業について深く考え、実践しようとする意欲を引き出し、主体的・対話的で深い学びを実践させる。
						生徒・進路指導論	2	伊藤 文一	生徒指導、進路指導及びキャリア教育は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われることを理解する。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識や技術や素養を身に付ける。
						教育実習 I	1	伊藤 文一	事前指導では、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実の意義の理解を図る。
						教育実習 IIA	4	伊藤 文一	中学校（高等学校）教育実習で必要とされる事柄についてビデオ、実技などを用いながら具体的な実習のイメージを形成するとともに、毎日、教育実習を振り返り、誌等の記録方法、指導案の作成などを行う。
						教育実習 IIB	2	伊藤 文一	高等学校（中学校）教育実習で必要とされる事柄についてビデオ、実技などを用いながら具体的な実習のイメージを形成するとともに、毎日、教育実習を振り返り、誌等の記録方法、指導案の作成などを行う。
						教職実践演習（中・高）	2	伊藤 文一	指導（学習）内容、指導（学習）過程、指導技術、指導（学習）形態等を考えてよりよい授業づくりについて考える。また、学校、家庭、地域社会の三者の連携を密にする方法を考える。
					計	6		計	25
専門教育科目	人文	言語芸術	日本語トレーニング I	2	松本 健	日本語トレーニング I	2	松本 健	書く技術、読む技術、調べる技術などについて、毎回トピックを決めて学ぶ。
			日本語トレーニング II	2	松本 健	日本語トレーニング II	2	松本 健	
						教師論	2	伊藤 文一	教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）について考え、自分の教師像を創るようにする。
						教育課程論	2	伊藤 文一	実際に各学校でどのように教育課程が編成されていくのか、という実務的な側面に留意して授業を行う。この授業を通して、カリキュラム・マネジメントの意味を理解し、実践的指導力を身に付ける。
						道徳教育の理論と指導法	2	伊藤 文一	道徳の意義や原理、歴史等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付けるように指導する。その上で、特別の教科「道徳」の目標である「道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度」が身に付くように指導する。
						教育方法論	2	伊藤 文一	授業とは、教師、子供、教材の中で子供が成長発達する機会であることを理解させ、わかる授業について深く考え、実践しようとする意欲を引き出し、主体的・対話的で深い学びを実践させる。
						生徒・進路指導論	2	伊藤 文一	生徒指導、進路指導及びキャリア教育は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われることを理解する。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識や技術や素養を身に付ける。
						教育実習 I	1	伊藤 文一	事前指導では、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実の意義の理解を図る。
						教育実習 IIA	4	伊藤 文一	中学校（高等学校）教育実習で必要とされる事柄についてビデオ、実技などを用いながら具体的な実習のイメージを形成するとともに、毎日、教育実習を振り返り、誌等の記録方法、指導案の作成などを行う。
						教育実習 IIB	2	伊藤 文一	高等学校（中学校）教育実習で必要とされる事柄についてビデオ、実技などを用いながら具体的な実習のイメージを形成するとともに、毎日、教育実習を振り返り、誌等の記録方法、指導案の作成などを行う。
						教職実践演習（中・高）	2	伊藤 文一	指導（学習）内容、指導（学習）過程、指導技術、指導（学習）形態等を考えてよりよい授業づくりについて考える。また、学校、家庭、地域社会の三者の連携を密にする方法を考える。
					計	4		計	17
専門教育科目	人文	メディア・コミュニケーション				現代メディア論	2	林田 真心子	1) メディア研究の基礎となる理論や研究の系譜を紹介する。 2) 身近なメディアと社会の在り様について、メディア研究の視点から考える。 その際、マスメディアやITだけでなく、スポーツやアート、日常的な空間など、幅広く、メディアとして機能しているモノやコトに注目する。それをおして、改めてメディアと私たちの関わりについて、受講者とともに考えたい。

			メディアとコミュニケーション研究	2	林田 真心子	マスコミ論	2	林田 真心子	メディアの仕組みや特徴を学ぶための講義。前半は、メディア産業論。マス・メディアを中心に、日本のメディア産業の特徴を学ぶ。後半は、新しいメディアの潮流もとりいれながら、身近なメディアと私たちのコミュニケーションの関わりについて、具体的な事例をもとに考える。また、本講では、理解を深めるためのミニ・ワークショップも授業内で随時取り入れていく。
						実践時事問題研究	2	林田 真心子	講義：ジャーナリズムに関する考え方や仕組み、研究のアプローチを紹介する。また、その際、時事的トピックも随時とりあげていく。ワークショップ：記事を実際に作成するなどして、ニュース生産の特性を実践的に学ぶ。また、ジャーナリズムの課題と可能性を考えるためグループワークを行う場合がある。
			メディア・リテラシー	2	林田 真心子	メディア・リテラシー	2	林田 真心子	以下の2つを織り交ぜながら展開する。 1) メディア・リテラシーの概念、世界の状況、歴史に関する講義。 2) メディア・リテラシー・ワークショップ。この授業という「ワークショップ」とは、遊びやゲーム、創作を通してものごとを考えたり、学んだりする活動のことを指す。メディア・リテラシーという営みにおいては、メディアに関する理論や歴史、特性を知ること重要であるが、実際にメディアで表現をし、体験をすることを通して実践的に考えていくこともとても大切だと考える。具体的には新聞やケータイ、カメラなど身近なメディアを使った創作活動を通して、メディアについてより深く理解していくことを目指す。
			グループ・プロジェクト	2	林田 真心子	ワークショップA	2	林田 真心子	雑誌『暮らしの手帖』に着想を得た「ジン（部数が少ない自主制作の出版物）」を制作する。メディア・コミュニケーション学科の全教員による雑誌文化に関するレクチャーを受け、『暮らしの手帖』の資料調査を行った上で、関心のあるテーマごとにチームを組み、同誌のアイデアを現代版に更新しながら小さな雑誌を編集・出版する。
			アナウンス表現研究	2	林田 真心子	ワークショップC	2	林田 真心子	・日本語アナウンスの基礎を学ぶとともに、日本のアナウンス文化について考える。 ・アナウンス実践。受講生とともにニュース原稿を読んだり、フリートークをしたりする。
			国内スタディ・ツアー	2	林田 真心子	フィールドワークC	2	林田 真心子	この授業は、他地域の放送局や美術館など、メディア、コミュニケーション、デザイン分野に関連する施設や生産現場を訪ね、その活動や実際に触れるものである。その経験を通して、3分野の関わりやそれぞれの特性について、地域を越えた全体的な理解をしていくことを目標とする。
				計	10		計	14	
専門教育科目	人間関係	心理	心理学概論 B	2	白澤 早苗	心理学概論 B	2	白澤 早苗	本講義では、主として心理学の応用領域における研究成果を紹介し、その研究方法や理論、発展について概説を行う。特に心理学を初めて学ぶ1年生が、「心理学」という学問の特質を知り、身近な事象を心理学的な視点からとらえ直すことで、心のしくみの面白さに触れることができるように多様な具体的なエピソードを取り上げながら講義を進める。なお、毎授業後に受講生が紙面にて提出するコメントと質問を受けて次の授業前半ではフィードバックと補足説明を行い、双方向的な授業を実施する。
			臨床心理学概論	2	重橋 のぞみ	臨床心理学概論	2	重橋 のぞみ	臨床心理学とは何か、その成り立ちや臨床心理学の基本概念を確認した上で、全体的に概観する。また、臨床心理学の代表的な理論を理解した上で、どのような分野でどのような対象に対して活用されているのか、実践についても学ぶ。さらに、臨床心理学的人間理解の方法である心理アセスメントについて考える。なお、自己理解を深めるため、授業の最後に毎回「授業内容の振り返り」の提出を求め、事後学習として毎回臨床心理学に関するコラムに対する感想を書き、翌週提出する。
			発達心理学A	2	大迫 秀樹	発達心理学A/発達心理学	2	大迫 秀樹	発達心理学における生涯発達の視点を踏まえた上で、主要な発達理論に基づきながら各発達段階の特徴を概観する。続いて、認知、言語、感情、社会性などの領域ごとの発達について学ぶとともに、発達のみならずきや障害についても概観する。そして、それらの発達を土台として築かれる青年期以降の発達についても詳しく学ぶこととする。
			人格心理学			人格心理学	2	白澤 早苗	本講義は、「感情」と「人格」という心理学における大きな2つのテーマを含むものである。「感情はどこから生まれるのか?」「感情をうまくコントロールする方法はあるのか?」「同僚や上司と下でなぜ行動に個人差が生じるのか?」「性格(人格)は変わる可能性があるのか?」このような日常生活において誰もが抱く素朴な疑問を、グループワークで共有し、解説を行うことにより理解を深めていく。
			心理学的支援法/心理療法概論	2	富永 幹人	心理学的支援法/心理療法概論	2	富永 幹人	心理療法を中心に、心理学的支援に関して以下の内容を理解することを目指す。①代表的な心理療法並びにカウンセリングの概要(歴史、概念、意義、適応及び限界を含む)、②地域支援、③良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、④プライバシーへの配慮、⑤要支援者の関係者に対する支援、⑥心の健康教育

			心理実践職能論 (2018年度入学生)	2	奇 恵英	日本における心理支援の現状と実際を基本知識として備え、法的義務と倫理をベースに、心理実践職能の具体的な内容について心理アセスメント、心理面接、多職種連携を軸に学ぶ。さらに、心理実践において重要な自己理解・自己訓練の重要性について学ぶ。
			心理演習Ⅰ/臨床心理基礎実習Ⅰ	1	白澤 早苗 奇 恵英 大迫 秀樹 重橋 のぞみ 富永 幹人	公認心理師の業務である、(1)心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析、(2)心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助、(3)心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助について、具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)や事例検討を通して理解を深める。 心理演習Ⅰでは、公認心理師としての職業倫理及び法的義務、特に秘密保持とインフォームドコンセントの重要性について取り上げ、グループワークや体験学習を通して、すべての支援の基礎となるコミュニケーションスキルの訓練を行う。さらに、心理面接及び心理検査の基礎的な実習を行う。 1クラスは15名以下のクラスとする(クラスの発表は第1回授業に行う)。以下に、ひとつのクラスを例として授業の進め方を記載する。
			心理演習Ⅱ/臨床心理基礎実習Ⅱ	1	重橋 のぞみ 富永 幹人 大迫 秀樹 白澤 早苗	公認心理師の業務である、(1)心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析、(2)心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助、(3)心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助について、具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)や事例検討を通して理解を深める。 心理演習Ⅱでは、心理演習Ⅰにおける基礎的学習内容を踏まえ、心理検査や心理面接の実践・展開を学び、多職種連携・地域連携における公認心理師の役割について理解を深める。さらに、心理に関する支援を要する者を理解し、そのニーズをどのように支援計画に反映させるか、また心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチをどのように実現するという心理社会的視点から、具体的な場面を想定したロールプレイング・事例検討を行う。 1クラスは15名以下の4クラスとする(クラスの発表は第1回授業にて行う)。以下に、ひとつのクラスを例として授業の進め方を記載する。
			心理実習Ⅰ	1	白澤 早苗 重橋 のぞみ 奇 恵英 大迫 秀樹 富永 幹人	公認心理師が業務を行う主な5分野(保健医療分野、教育分野、福祉分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野)の実習施設における見学実習を行い、要支援者等に関する知識や支援の方法、公認心理師の役割、多職種連携のあり方、職業倫理等への理解を深める。なお、事前指導①～⑤においては、外部講師が担当する場合もある。 1クラスは15名以下の6クラスとする(クラスの発表は第1回授業にて行う)。以下に、ひとつのクラスを例として授業の進め方を記載する。
			心理学フィールドワーク(臨床)A	1	奇 恵英 重橋 のぞみ 白澤 早苗	受講者は、医療・教育・福祉の3つの領域の中の一施設にて30時間の実習を行うとともに、事前指導、毎月のカンファレンス、振り返りとともに参加する。臨床現場における実践活動としては、1回あたり3～4時間程度の活動を行う。実習の時期、期間は、実習先に応じて異なるが、事前指導、カンファレンス、振り返りとともに全員合同で実施する。なお、実習後3日以内に毎回の活動報告の提出を求め、
			心理学フィールドワーク(臨床)B	1	奇 恵英 重橋 のぞみ 白澤 早苗	受講者は、医療・教育・福祉の3つの領域の中の一施設にて30時間の実習を行うとともに、事前指導、毎月のカンファレンス、振り返りとともに参加する。臨床現場における実践活動においては、1回あたり3～4時間程度の活動を行う。実習の時期、期間は、実習先に応じて異なるが、事前指導、カンファレンス、振り返りとともに全員合同で実施する。なお、実習後3日以内に毎回の活動報告の提出を求め、なお、フィールドワークAを既に受講している者については、原則としてAとは異なる施設にて実習を行うものとする。
			心理療法基礎実習	2	奇 恵英 白澤 早苗	解決志向ブリーフセラピー、認知行動療法、主導型リラクゼーション療法(サート)、傾聴トレーニング、箱庭療法、集団心理療法(心理劇)など、様々な心理療法の実践を体験し、心理療法実施の際の配慮や責任について理解した上で、心の援助技術を学ぶ。受講者は互いにセラピストとクライアント役割を体験し、さらにグループでの話し合いを通して理解を深める。これらの実習を通して、自己理解、他者理解を深め、人と人をつなげる技術を習得するとともに、受講者のコミュニケーションスキル向上を目指す。なお、本実習は、前・後陣それぞれ3名の担当者にて、オムニバス形式で授業を行う。受講者は3グループ(A・B・C)に分けられる。以下、Aグループを例に第1～15回の進め方について記載する。

					発達心理学B/青年心理学	2	白澤 早苗	「自分はどのような人間であり、これからどのように生きていけばよいのか？」 青年期に多くの人が直面するこのテーマについて、発達心理学や臨床心理学の理論を概説し、身近な事象を取り上げながら受講生の理解を促す。さらに受講生一人一人にとっての「大人になる」ことの意味についてグループディスカッションや個別のワークを通して考えていく。
					道徳教育の理論と指導法	2	伊藤 文一	道徳の意義や原理、歴史等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付けるように指導する。その上で、特別の教科「道徳」の目標である「道徳的判断力、道徳的心情、道徳の実践意欲と態度」が身に付くように指導する。
					教師論	2	伊藤 文一	教師の意義及び教員の役割、教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を旨む)について考え、自分の教師像を創るようになる。
					教育課程論	2	伊藤 文一	実際に各学校でどのように教育課程が編成されていくのか、という実務的な側面に留意して授業を行う。この授業を通して、カリキュラム・マネジメントの意味を理解し、実践的指導力を身に付ける。
					教育方法論	2	伊藤 文一	授業とは、教師、子供、教材の中で子供が成長発達する機会であることを理解させ、わかる授業について深く考え、実践しようとする意欲を引き出し、主体的・対話的で深い学びを実践させる。
					生徒・進路指導論	2	伊藤 文一	生徒指導、進路指導及びキャリア教育は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われることを理解する。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識や技術や素養を身に付ける。
					教育実習 I	1	伊藤 文一	事前指導では、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技術等について理解する。これらを通して教育実の意義の理解を図る。
					教育実習 IIA	4	伊藤 文一	中学校(高等学校)教育実習で必要とされる事柄についてビデオ、実技などを用いながら具体的な実習のイメージを形成するとともに、毎日、教育実習を振り返り、誌等の記録方法、指導案の作成などを行う。
					教育実習 IIB	2	伊藤 文一	高等学校(中学校)教育実習で必要とされる事柄についてビデオ、実技などを用いながら具体的な実習のイメージを形成するとともに、毎日、教育実習を振り返り、誌等の記録方法、指導案の作成などを行う。
					教職実践演習(中・高)	2	伊藤 文一	指導(学習)内容、指導(学習)過程、指導技術、指導(学習)形態等を考えてよりよい授業づくりについて考える。また、学校、家庭、地域社会の三者の連携を密にする方法を考える。
				計	6		計	36
専門教育科目	人間関係	子ども発達						
					心理学概論	2	赤間 健一	心理学の扱うテーマは非常に広範囲にわたるが、本講義では、知覚、記憶、学習、発達、感情、動機づけ、パーソナリティ、対人関係、ストレスについて扱う。各領域の基本的事項の説明を行い、日常生活の出来事と関連付けて考えることで理解が深まるように講義を進める。
					発達心理学 I (総論)	2	坂田 和子	発達心理学 I (概論)では、人の心理面の発達過程の中でも、特に子どもの発達過程の基礎的な理論や体系を学んでいく。また、人との関わりの中で発達していく過程を学ぶことにより、人間関係の重要性を理解する。 発達心理学はこの20年ほどでかなりの知見を積み上げてきており、発達観も深化し、変容している。そこで、基礎的な知見をいかにして現在の実践に結び付けていくのかを近年の動向も踏まえながら考えていく。
					子どもの発達と学習の心理学	2	赤間 健一	乳幼児期の発達の様相について、遊びと学びの関係を中心に捉え、児童期の学びへの連続性について理解を深める。それぞれの時期の特徴を踏まえ、個々に応じた学びの提供を検討し、学びの基盤となる情緒の安定と保育者ならびに教師の役割についての視点を得る。同時に、発達のなかに見られる学習過程を学習理論やその基本型、学習成果の保持や転移から裏づけを行う。また、学習過程のなかで起こる適応のカニエムや問題も理解を深め、発達に応じた指導モデルや、学習障害を中心とした発達障害児への指導、滑らかな連続について検討する。
					発達心理学 II (乳幼児と親の発達心理)	2	坂田 和子	人間の発達を、胎児期、乳幼児期から老年期に至るまでの生涯発達の視点から縦断的に、また、特に従来幼児期、児童期、青年前期といわれてきた「子ども期」を断断期に自我や人格形成に重要な時期と捉えて重点的に概観する。その上で、子どもの発達と成人期男女の親としての発達に関係性の視点を加え、子育て家庭に関する現状と課題を検討し、子どもの心の健康に関わる問題について具体的に理解する。

			子ども理解の技法（観察法と統計解析法）	2	赤間 健一	子どもの活動を観察室から直接観察し得た情報と、観察室から多角的カメラで撮影・記録した映像を分析した情報の違いについて確認し、直接観察で取りやすい情報の欠落について考察する。記録を作成するために必要な視点のもち方について学び、記録の方法について実践する。さらに、それらを評価する統計法について理解を深める。
			発達・教育相談の基礎	2	毛利 泰剛	発達・教育相談の中心は子どもと子どもに関わる人のこころの援助である。こころの援助には単に問題の解決だけでなく、その人の存在や発達の背景を理解することが必要になる。教育や保育に関わる立場としてこころの援助の必要性の理解その方法の基礎について理解する。
			教育相談の方法と実践	2	毛利 泰剛	子どもの心身の健康や発達を保障するために、子どもの問題把握の際について学ぶとともに、問題を持つ子どもへの発達検査、知能検査等の心理学的測定・評価（アセスメント）について学ぶ。また、子どもの養育の第一義的な責任を持つ保護者を援助するための基本的姿勢、ニーズの把握、援助計画の立案、具体的な援助と評価の過程について学ぶ。さらには、「発達・教育相談の基礎」との関連性、教育相談、特別支援教育などの学校組織内での位置づけと立場について把握する。
保育者論	2	松尾 裕美				・保育職・幼稚園教諭に関する基本的な理解を深めると共に、保育者・幼稚園教諭の仕事、役割を認識し、自らの進路方向、適性、課題を考える機会とする。特に理想とする保育者・教師像の探求、およびそれに向けた自分自身の課題の発見を目指す。
特別支援教育論	2	松崎 保弘	特別支援教育論	2	松崎 保弘	・特別支援教育の歴史をふまえ、理念と制度を説明することができる。 ・障害はないが特別なニーズのある幼児児童生徒の学習上・生活上の困難を克服、「インクルーシブ教育システム」に対する理解を深める。 ・各障害の特性を理解し、教育内容・方法・教育課程、個別の指導計画・個別の教育支援計画に関する基本的事項を理解する。 ・就学前から卒業後を見通し、福祉・医療・労働等と連携して幼児児童生徒の生涯発達支援を担う知識と資質を身につける。
			児童家庭福祉論	2	稲富 憲朗	少子高齢化の進行、子ども虐待問題、子どもの貧困問題の深刻化等が大きな社会問題として取り上げられるようになり、家族を取り巻く社会的環境の変化がもたらす“子育て・子育て”への影響が指摘され、子どもの育ちを社会全体で支えていくことの必要性が認識されるようになりました。かつの「児童福祉」が「児童家庭福祉」と言われるようになり、その活動・実践領域も広がっています。子どもたちの健やかな成長と自立への支援のために、子どもの家庭環境や育ちの理解を深め、権利擁護の視点をもって児童家庭福祉の現状と課題を学び、実践に必要な基本的な知識の習得を目標とします。
			子どもの保健Ⅰ（各論）	2	藤田 一郎	保育士が関わる対象となる乳幼児の病気について学ぶ。子どもの発達と成長、子どもの急病、事故、救急処置、感染症、アレルギー疾患を学ぶ。子どもの心の発達と発達障害、心身症について学ぶ。
			保育内容総論	2	松尾 裕美	幼稚園教育要領ならびに保育所保育指針に示されている保育内容の5領域（人間関係・言葉・環境・健康・表現）を総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育の内容・方法について学び、保育課程に基づいた指導計画の作成等の実践を行う。
			保育内容（人間関係）	2	赤間 健一 毛利 泰剛	一般的な視点の「人間関係」はまさに多種多様で、そのとらえどころもさまざまであるが、ここでいう保育内容としての「人間関係」は、かなり明確に位置づけがなされたものである。そうした見地から幼児期にとらえておかなければならない最低限の「関係性」は必然性があると思われる。幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼少期の終わりまで育てたい姿」と領域「人間関係」との関連についても考えつつ、それらを具体化するための方策を学んでいく。授業の過程で随時、情報機器及び教材の活用を取り入れ情報機器活用の知識・技能を学ぶ。
			保育内容（健康）	2	藤田 一郎 森谷 由美子	保育内容・領域「健康」では、子どもの健康な心から育て、自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養うための適切な支援・援助ができる能力を獲得することを目的とします。
			保育内容（言葉）	2	松尾 裕美	この授業では、各年齢段階における子どものことばの発達を学び、保育におけることばの役割と保育内容を理解する。また、ことばの育ちの観点から子どもの実態に応じた指導案を作成する力を身につける。
			子どもの保健Ⅱ	2	森谷 由美子	小児保健について基礎的事項を学び、乳児人形等を使用し、小児保健に関連する演習を行います。

					ソーシャルワーク演習	2	稲富 憲朗	現在保育者には、子どもの保育だけではなく、保護者に対する相談助言などを含めた、ソーシャルワーク（社会福祉援助）の機能を果たすことが求められています。この科目では保育者として必要なソーシャルワークについて学び、子どもや家族が抱える問題や課題に対して理解と共感をもとにした専門的援助ができるような基礎づくりをします。
					社会福祉相談援助	2	稲富 憲朗	現在保育者には、子どもの保育だけではなく、保護者に対する相談助言などを含めた、ソーシャルワーク（社会福祉援助）の機能を果たすことが求められています。この科目では保育者として必要なソーシャルワークについて学び、子どもや家族が抱える問題や課題に対して理解と共感をもとにした専門的援助ができるような基礎づくりをします。
					障害児保育	2	山之内 幹	障害のある乳幼児にとつての早期支援の意義を学び、幼稚園・保育所・療育機関の役割と実践を学ぶ。授業を通じて情報機器の活用例・活用方法を学ぶ。
					初等教科教育法（国語）	2	原田 大樹	国語（ことば）の基礎的・基本的な知識・技能の獲得を目指し、国語科における各領域の目標・内容・方法・評価を体系的に学ぶ。また、基礎的・基本的な知識だけではなく、協働で創作する学習活動等をおとして、国語科教師としての実践力を育成する。
					初等教科教育法（理科）	2	石井 健作	小学校現場での授業を考慮し、現場に即した理科の学習内容把握と学習指導方法の研究を行い、実践的な技能や技術、知識の習得を目指す。
					初等教科教育法（生活）	2	石井 健作	小学校現場での授業を考慮し、現場に即した生活科の学習内容の把握と学習指導方法の研究を行い、実践的な技能や技術、知識の習得を目指す。
					初等教科教育法（音楽）	2	福島 さやか	小学校における音楽科教育の目的、内容、方法について理解し、授業実践に必要な知識と技能を習得する。また、歌唱、楽譜・鑑賞、音楽づくりのそれぞれの活動の意義、指導上の留意点、教材研究について理解を深める。さらに、学習指導計画の立案、模擬授業をおとして授業を構成する実践力を育成する。
国語表現	2	原田 大樹	国語表現	2	原田 大樹	国語の体系的な知識を学ぶとともに、小学校国語科における教材の内容について理解すること。		
			小学校理科	2	石井 健作	小学校理科の理論と方法について学び、理科教育、理科授業の理解を深め、教材についての技能や技術、知識の習得を目指す。		
小学校生活科	2	石井 健作	小学校生活科	2	石井 健作	小学校生活科の理論と方法について学び、生活科教育、生活科授業の理解を深め、教材についての技能や技術、知識の習得を目指す。		
音楽（声楽）	1	福島 さやか	音楽（声楽）	1	福島 さやか	保育者・教育者として、子どもに歌いかけようための声楽の基礎を学ぶとともに、弾き歌いに必要な鍵盤楽器演奏の基礎を身につける。また、基本的な音楽理論を理解することを目標とする。		
			音楽（器楽）Ⅰ	1	福島 さやか	保育者・教育者にとって、ピアノ演奏は大切な技能の1つである。本科目においては、ピアノ演奏のために必要な基礎的知識と技術を習得し、弾き歌いのレパートリーを広げることが目標とする。また、現場で必要とされるアレンジの能力を高めることを目指す。		
			音楽（器楽）Ⅱ	1	福島 さやか	「音楽（器楽）Ⅰ」の内容をさらに発展させ、音楽に関する理解力を高める。演奏技能の向上を図り、保育・教育を実践する力を培う。		
			音楽表現	1	福島 さやか	「保育表現技術（音楽表現）」、「音楽（声楽）」、「音楽（器楽）Ⅰ・Ⅱ」で培った音楽の基礎をさらに発展させ、楽曲解釈、音楽表現を柱とし、保育・教育現場で指導するための応用力を育成する。		
			障害児教育論	2	松崎 保弘	障害概念、各障害種の特徴、教育制度等の基礎的事項を学び、特別支援学校だけでなく一般学校における障害児教育に関する理解を深める。予習復習を重視し、授業で課せられるレポートを作成することにより、特別支援教育の基本となる知識・考え方を習得する。		
			社会的養護内容	2	稲富 憲朗	社会的養護は、児童の施設や地域における生活（生きること）そのものです。さまざまな理由で社会的養護を必要としている児童の確かな育ちと最善の利益の実現のために援助者（保育者）の支援のあり方を、事例を通して実践的に学びます。グループワークを多用しますので積極的な参加が大切です。		
			知的障害児の心理・生理・病理	2	松崎 保弘 藤田 一部	知的障害児の心理、生理、病理に関する基礎的な知識、および適切な支援について学ぶ。		
			肢体不自由児の心理・生理・病理	2	藤田 一部 山之内 幹	人の体について理解した上で、肢体不自由児の心理、生理、病理について理解を深めていく。個性まじい筋ジストロフィー症について具体的に学び、関連機関との連携や家族の支援など、幅広い知識を身につけることを目指す。		
			病弱児の心理・生理・病理	2	藤田 一部	本授業では、子どもの成長発達とおもな疾病と障害、医療的対応について学び、医療・福祉機関との連携のあり方を述べる。子どもと家族の心理的問題と心理支援のあり方を述べる。視聴覚教材を用いた体験的、実践的な学習も行う。		

					知的障害児教育論	2	松崎 保弘	知的障害および自閉症の障害特性を理解し、知的障害児の教育制度上の定義、個別的教育支援計画・指導計画等の基本的知識の理解と、特別支援学校や特別支援学級で必要となる学習や生活等の具体的支援について理解を深めていく。
					肢体不自由児教育論	2	山之内 幹	医療や社会変化のなかで肢体不自由児のニーズに合わせて進んできた肢体不自由教育の現状と考え方を理解し、教育実践に臨む姿勢を学ぶ。
					知的障害児教育総論	2	松崎 保弘	知的障害のある子どもの教育について、現状、今日的課題、ニーズ等。また心理、生理、病理の特性や特徴に関して理解し、特別支援学校（学級）で必要と思われる具体的支援について具体的に学ぶ。また、就学前の療育機関での学びや高等部での教育との関連をふまえて、主に小学部での教育についてより多角的に学ぶ。
					重複障害・LD等の心理・生理・病理	2	藤田 一郎 山之内 幹	心身に障害のある児童の心理および病理に関する理解を深める。LD、ADHD、自閉症、アスペルガー症候群の診断および支援を具体的に学び、それぞれの障害児への支援の在り方について理解を深める。
					施設実践演習	2	稲富 憲明	社会的養護は、児童が暮らす施設や里親家庭や地域における生活支援です。さまざまな理由で社会的養護を必要としている児童の健やかな成長と養育の実現のために援助者（保育者）の支援のあり方について実践的に学びます。この授業では、施設・保育実習等で出会った事例の発表や模擬事例検討や演習、ロールプレイ、グループワークを通して実践的に学びます。
					保育実習指導Ⅰ（施設）	1	稲富 憲明	児童福祉施設や社会福祉施設で実習を行うために必要な知識や技術、価値観の習得を目標とする。具体的には施設の社会的意義、目的、実習の内容、方法、心構え等を学ぶとともに、施設で生活する人々に対するかかわりについて必要な倫理観について学ぶ。
					保育実習Ⅰ（施設）	2	稲富 憲明	1) 施設の機能や役割を実際の体験を通して理解する。2) 施設で生活する児童・利用者への理解を深める。3) 施設で行われている援助、指導、療育、訓練などに実際に関わりながら、保育士の仕事の具体的な内容や、保育士としての倫理観、また他職種とのチームワークを理解する。
					保育実習指導Ⅲ	1	稲富 憲明	保育実習Ⅲでの実習現場は多岐にわたるため、それぞれの施設について学生自らが調査することが求められる。また学生のニーズにそって、施設実習に必要な知識と技術を養っていくことを目標とするが、とくにアセスメント、プロセスコード、インテグレーション等を利用し、実習での体験を分析するためのツールを身に着けることを重視する。
					保育実習Ⅲ	2	稲富 憲明	1) 施設生活の様々な場面に対応可能な養護技術を習得する。2) 児童・利用者の個別ニーズに対応するための具体的な技術を習得する。とくに発達の違いや生活環境に伴うニーズの理解とその対応についての理解を深める。3) 援助計画を立案し実践に活かす。4) 児童・利用者・家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。5) 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自身の課題を明確化する。
					幼稚園教育実習指導Ⅰ	1	松尾 裕美	幼稚園教育実習指導Ⅰでは、幼稚園教育実習を有意義なものとするため、実習生としてふさわしい心構えや態度を整え、実習にむけて様々な準備を行う。また、幼稚園教育実習終了後は実習を振り返り、今後にむけた改善を行い、自己の資質について考え、幼稚園教諭としての意欲を高めることを目的とする。
					幼稚園教育実習Ⅰ	2	松尾 裕美	幼稚園教育実習Ⅰは、大学で学んだ理論や技術を実際の幼稚園における幼児教育として実践することで応用力を養い、幼児に対する理解を通して理論と実践の関係について学ぶとともに幼稚園教諭にふさわしい態度を身につけ、自己の適性について問いかけることを目標とする。
					幼稚園教育実習指導Ⅱ	1	松尾 裕美	幼稚園教育実習指導Ⅱは、幼稚園教諭としての総合的な力量形成を目指す幼稚園教育実習Ⅱに向け必要な知識・技術を獲得するとともに、実習にむけ目標・課題を設定し、自己の適性についての問いかけを行い、実習生に求められる意欲・態度の涵養を図ることを目標とする。
					幼稚園教育実習Ⅱ	2	松尾 裕美	幼稚園教育実習Ⅱは、幼稚園教育実習Ⅰを踏まえ、より専門性を高めるために、大学で学んだ理論や技術や、実際の幼稚園における幼児教育として実践することで応用力を養い、幼児に対する一般理解、および個々の理解を通じて理論と実践の関係について学ぶとともに、幼稚園教諭として求められる知識・技能・態度を更に高め、自己の適性について問いかけ、向上させることを目標とする。
					小学校教育実習指導	1	石井 健作 福島 さやか 原田 大樹	教育実習の実施に不可欠な基本的事項について理解し、学習指導の実践について実践的な知識・技能を修得する。また、学校の教育活動全般における基礎的事項について学習し、次のような能力を形成していく。1. 論理的科学的思考能力: 学校における教育活動の実践について理解し、教師としての社会的役割等を説明できる。2. 自己表現力: 教師としての使命感をもって実習に向けての具体的なイメージをもつことができる。3. 知識・技能の活用能力: 現場にかかわる教材分析の方法や基礎的な指導技術、子どもと関わるスキルを身に付けていく。4. 問題解決能力: 子どもとの

									山之内 幹	信頼関係を築き、共に感じ共に考え共に学ぼうとする気持ちを持つ。
									石井 健作 福島 さやか 原田 大樹 山之内 幹	小学校の教育活動の場に臨み、子どもと直接ふれ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者に求められる知識、技能、態度を修得する。 特に、教科指導や生徒指導などの教育実践を通して、生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。
									石井 健作 福島 さやか 原田 大樹 山之内 幹	小学校の教育活動の場に臨み、子どもと直接ふれ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者に求められる知識、技能、態度を修得する。 特に、教科指導や生徒指導などの教育実践を通して、児童理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。
									松崎 保弘 藤田 一郎 山之内 幹	特別支援教育実習の実施に不可欠な基本的事項について理解し、学習指導・生活指導の実践について実践的な知識・技能を修得する。幼稚園・小学校教育実習で学んだ基礎的事項、特別支援教育関連科目で学んできた専門的知識を活かして実習に取り組み能力と自覚を形成する。
									松崎 保弘 藤田 一郎 山之内 幹	特別支援学校の教育活動の場に臨み、障害のある子どもと直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、特別支援学校で働く教育者に求められる知識、技能、態度を修得する。学習指導や生活指導などの教育実践を通して、児童理解、人間尊重の精神と教育者としての使命感を養う。
									松崎 保弘 松尾 裕美 石井 健作	保育士・幼稚園教諭・小学校教諭として求められる以下の各資質・能力の獲得状況を確認し、不足する部分を補完し、実践力を備えた教員を養成する。①使命感や責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係力、③幼児児童生徒及び幼小連携に関する理解や学級経営力、④保育・教育活動における指導力、表現力
									計 13	計 96
専門教育科目	国際キャリア	国際英語								
										将来、企業や公的な機関などで国際関連の業務に就くために必要な基礎的な経済知識を身につけることを目標とします。
										The course will cover on-going events in the world, including conflicts, trade frictions, environment and terrorism. It will also deal with Japan's relations with other countries, such as the United States, China, Russia and the Republic of Korea.
										This course introduces concepts of international cooperation. The course introduces what economic aid is and explores historical background through a wide range of topics including policy, poverty reduction, gender issues, economic diversity, development aid styles, and global values.
										Students will study the basic functions of the United Nations in various fields, such as security, disarmament, humanitarian activities, human rights, development and environment. They will also discuss the challenges facing the United Nations as well as Japan, including its diplomacy with the United States, China and Korea. In doing so, students will develop analytical skills for making sound judgments, which are indispensable to seek international career.
										Students will study a variety of issues confronting today's world, with special emphasis on United Nations peace efforts. Also, they will discuss the contemporary issues concerning Japan, particularly its diplomacy with Asian neighbors, such as China and the Republic of Korea. In doing so, students will develop analytical skills for making sound judgments, which are indispensable to seek international career.
										Students will study the basic functions of the United Nations in various fields, such as security, disarmament, humanitarian activities, human rights, development and environment. They will then discuss the role of the media and an ideal way they should operate.
										To enable the participating students to gain first-hand experience at United Nations offices in Tokyo, including UNICEF, UNDP, UNHCR and UNIC. Also experience daily activities at a TV station and a newspaper company.
										Students will take part in an internship program provided by a company.
										Students will take part in an internship program provided by a company.
										教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容(研修、勤務及び身分保障等を含む)について考え、自分の教師像を創るようにする。

					教育課程論	2	伊藤 文一	実際に各学校でどのように教育課程が編成されていくのか、という実務的な側面に留意して授業を行う。この授業を通して、カリキュラム・マネジメントの意味を理解し、実践的指導力を身に付ける。			
					英語科教育法Ⅰ	2	細川 博文	中学・高校の英語教師として求められる基礎知識を習得する。具体的には、英語教育政策、学習指導要領、教科書、及び教授法の変遷に関する理解を図る。			
					英語科教育法Ⅱ	2	細川 博文	中学・高校の英語教師として求められる基礎知識を習得する。具体的には、学力の3要素育成、到達目標設定、指導計画、授業の組み立て、英語力の測定・観点別評価に関する理解を図る。			
					英語科教育法Ⅲ	2	細川 博文	本講座は「中学」の英語教師に求められる実践的指導力を身に付ける。具体的には、1. 4技能及びその統合型指導、2. 文字・語彙・文法指導、3. ICTを使用した指導、4. ティーム・ティーチング、などについてインタラクティブにかつ生徒の習熟度に応じた指導ができる力を身に付ける。			
					英語科教育法Ⅳ	2	細川 博文	本講座は「高校」の英語教師に求められる実践的指導力を身に付ける。具体的には、1. 4技能及びその統合型指導、2. 文字・語彙・文法指導、3. ICTを使用した指導、4. ティーム・ティーチング、などについてインタラクティブにかつ生徒の習熟度に応じた指導ができるような力を身に付ける。			
					教育方法論	2	伊藤 文一	授業とは、教師、子供、教材の中で子供が成長発達する機会であることを理解させ、わかる授業について深く考え、実践しようとする意欲を引き出し、主体的・対話的で深い学びを実践させる。			
					道徳教育の理論と指導法	2	伊藤 文一	道徳の意義や原理、歴史等を踏まえ、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付けるように指導する。その上で、特別の教科 道徳の目標である「道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度」が身に付くように指導する。			
					生徒・進路指導論	2	伊藤 文一	生徒指導、進路指導及びキャリア教育は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的責任や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われることを理解する。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識や技術や素養を身に付ける。			
					教育実習Ⅰ	1	伊藤 文一	事前指導では、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実の意義の理解を図る。			
					教育実習ⅠIA	4	伊藤 文一	中学校（高等学校）教育実習で必要とされる事柄についてビデオ、実技などをを用いながら具体的な実習のイメージを形成するとともに、毎日、教育実習を振り返り、誌等の記録方法、指導案の作成などを行う。			
					教育実習ⅠIB	2	伊藤 文一	高等学校（中学校）教育実習で必要とされる事柄についてビデオ、実技などをを用いながら具体的な実習のイメージを形成するとともに、毎日、教育実習を振り返り、誌等の記録方法、指導案の作成などを行う。			
					教職実践演習（中・高）	2	伊藤 文一	指導（学習）内容、指導（学習）過程、指導技術、指導（学習）形態等を考えてよりよい授業づくりについて考える。また、学校、家庭、地域社会の三者の連携を密にする方法を考える。			
					計	4		計	27		
専門教育科目	国際キャリア	国際キャリア			Introduction to World Business（国際キャリア入門）	2	山口 直彦	国際キャリア入門（学部共通）	2	山口 直彦	将来、企業や公的な機関などで国際関連の業務に就くために必要な基礎的な経済知識を身につけることを目標とします。
					Human Resource Management	2	山口 直彦	日本企業における人的資源管理について学ぶ	2	山口 直彦	日本の戦後の産業の変遷と現状について学ぶ
					Japanese Industry	2	山口 直彦	国際ビジネスやその支障に従事している経営者や業務担当者による講義を通じて、国際ビジネスに対する実践的な知識を深める。	2	山口 直彦	九州地域の産業集積地のうち国際ビジネスを展開している企業が多い北部九州地域の地域の企業、公的機関、産業施設等を訪問し、国際ビジネスについての実践的な知識を深める。
					Current Business（Lecture series）	2	山口 直彦	九州地域の産業集積地のうち国際ビジネスを展開している企業が多い北部九州地域の地域の企業、公的機関、産業施設等を訪問し、国際ビジネスについての実践的な知識を深める。	2	山口 直彦	ビジネスの現場に足を踏み入れて現実的な就業体験を行う。
					Japanese Career Fieldwork	2	山口 直彦	九州地域の産業集積地のうち国際ビジネスを展開している企業が多い北部九州地域の地域の企業、公的機関、産業施設等を訪問し、国際ビジネスについての実践的な知識を深める。	2	山口 直彦	ビジネスの現場に足を踏み入れて現実的な就業体験を行う。
					Business InternshipⅠ	2	山口 直彦	九州地域の産業集積地のうち国際ビジネスを展開している企業が多い北部九州地域の地域の企業、公的機関、産業施設等を訪問し、国際ビジネスについての実践的な知識を深める。	2	山口 直彦	ビジネスの現場に足を踏み入れて現実的な就業体験を行う。
					Business InternshipⅡ	2	山口 直彦	九州地域の産業集積地のうち国際ビジネスを展開している企業が多い北部九州地域の地域の企業、公的機関、産業施設等を訪問し、国際ビジネスについての実践的な知識を深める。	2	山口 直彦	ビジネスの現場に足を踏み入れて現実的な就業体験を行う。
					計	2		計	14		